

門入ダム

門入（もんによう）ダムは、津田川総合開発の一環として香川県が津田川水系梅檀川（せんだんがわ）の寒川町（現さぬき市）石田東に建設した多目的ダムです。

津田川は急流のため古くから出水のたびに被害が発生していたため、昭和 38 年に大川ダムが竣工して治水安全度の向上が図られましたが、その後も昭和 51 年 9 月の台風 17 号や昭和 62 年 10 月の台風 19 号などにより河岸の決壊、氾濫を繰り返してきました。さらに沿川の津田町、大川町（いずれも現さぬき市）の市街化が著しく進み、地元住民からは抜本的な治水対策が強く望まれてきました。

また、津田川は寒川町・津田町・大川町の耕地及び生活用水の水源として広く利用されてきましたが、昭和 48 年、昭和 53 年など夏期にしばしば深刻な水不足に見舞われたため、不特定補給を行い流水の正常な機能の維持を図る必要がありました。さらに寒川町では生活用水の増加、地場産業の発展により、水道用水の需要が急速に伸びることが予想されることから、新たな水源確保が強く望まれてきました。こうして治水、利水の両面から門入ダムが津田川総合開発の一環として建設されることになりました。

門入ダムの目的は洪水調節、流水の正常な機能の維持及び水道用水の供給であり、ダム地点の計画高水流量 $60 \text{ m}^3/\text{s}$ のうち $40 \text{ m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行うとともに、梅檀川沿岸の既得用水の補給を行うなど流水の正常な機能の維持を図り、さらに寒川町に門入ダム地点で水道用水として新たに 1 日最大 $1,500 \text{ m}^3$ の取水を可能とするものです。

香川県は、昭和 55 年度に門入ダムの実施計画調査を開始し、平成元年度に建設に着手しました。平成 3 年度に付替道路工事に着手、平成 5 年 10 月にダム本体工事に着手、平成 7 年 6 月にダム本体コンクリート打設を開始、平成 9 年 5 月に打設を完了し、平成 10 年 11 月に試験湛水を開始して、平成 11 年 3 月に門入ダム竣工式が行われました。

平成 16 年 10 月の台風 23 号で香川県東部が豪雨に見舞われた時には、門入ダムでは最大流入時に $121 \text{ m}^3/\text{s}$ を調節し、約 85 万 m^3 の洪水を一時貯留したことにより、下流の河川の流量を軽減するなどの効果を発揮しています。

門入ダムの工事の特徴は、ダム軸上流約 100mにあるかんがい用ため池「門入池」のかんがい機能を生かしながら工事を行ったことにあります。また、門入ダムは市街地から近く、幹線道路からもよく見える位置にあるので、ダム本体をライトアップする設備を設けるとともに、ダム下流面には石積模様の化粧型枠を施すなど景観面にも配慮がなされています。門入ダムは、貯水池上流のカメリア温泉やダム周辺の公園「門入の郷」と一体になって、観光・レクリエーションの名所としても人々に親しまれています。

<参考文献：香川県長尾土木事務所編「門入ダム工事誌」1999 年、香川県長尾土木事務所香川県門入ダム管理事務所編「門入ダム」1995 年、香川県編「平成 16 年香川の台風災害」2005 年など>

